

〔解説〕 葛西聖司
〔狂言〕 野村萬斎(朝の部)・野村裕基(昼の部)
〔能〕 観世喜正(朝の部)・中森貫太(昼の部)
〔質疑応答〕 中森貫太
ほか

解説 妖狐の祟り 藪蚊の攻撃

狂言 蚊相撲

能 殺生石

2026

1.17 土 10:00 開演 14:00 開演

府中の森芸術劇場 ふるさとホール

全席指定 ¥4,500 Fivo Plus会員割引対象公演

※小学校入学前のお子様の入場はご遠慮ください。

Fivo Plus会員 10月 5日[日] 予約開始

Fivo Free会員 10月 8日[水] 予約開始(Webのみ)

一般 10月10日[金] 予約開始 ※予約開始日は店頭での販売はありません。

チケットお申込み

■ Fivo (パソコン・スマホ)

[24時間受付 ※予約開始日は10:00~]

※ご利用には会員登録が必要です。

※チケット料金のほかに手数料がかかります。

■ チケットふちゅう

042-333-9999 10:00~17:00 ※劇場休館日は休業

※Free会員は一般予約開始日よりご利用いただけます。

■ チケットぴあ <https://t.pia.jp>

Pコード:535-353 ※予約開始日は10時~

Fivo 検索



野村萬斎



野村裕基



観世喜正



中森貫太



葛西聖司



©山口直也

やむを得ず、出演者・演目等が変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。



- 新宿から京王線で約30分、東府中駅北口下車徒歩約7分
- JR中央線武蔵小金井駅から
・東府中駅行バス東府中駅下車徒歩約7分
・府中駅行バス(一本木経由)第二小学校下車徒歩約10分
・南口からタクシーで約15分

※ご来場の際は電車・バスをご利用ください。

【主催】

公益財団法人府中文化振興財団
府中の森芸術劇場



@fuchu_theater



@FuchuTheater



ホームページ ▶

狂言

「蚊相撲」あらすじ

大名が新しい召使を抱えようと、太郎冠者に探しに行かせる。そこへ、都に上り人の血を吸うため、人間の姿になった江州守山の蚊の精が通りかかり、正体に気づかない太郎冠者は蚊の精を連れ帰る。新しい召使は相撲が得意と聞き、喜んだ大名は早速取らせて見たいと思うが、相手がいないのでやむなく自身で相手をすると、蚊に刺されて目を回してしまう。蚊の正体に気づいた大名は、勝つためにあるものを持ち出すのだが…。



のむら まんさい

野村 萬齋

1966年4月5日生 B型 東京都出身。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。3歳で初舞台。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台『敦・山月記・名人伝』『国盗人』など古典の技法を駆使した作品の演出、NHK『にほんごであそぼ』に出演するなど幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。1994年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞等を受賞。2018年演出・主演舞台『子午線の祀り』で毎日芸術賞千田是也賞を受賞。作品は読売演劇大賞最優秀作品賞にも輝いた。2021年4月より石川県立音楽堂邦楽監督、(公社)全国公立文化施設協会会長。



なかもり かんた

中森 貫太

1961年2月生まれ。神奈川県在住。観世流シテ方。(公社)日本能楽会会員(重要無形文化財総合指定者)。(公社)能楽協会会員。(公財)鎌倉能舞台理事。東京芸術大学音楽学部邦楽科別科修了。鎌倉能舞台創設者の中森昌三の長男。(公社)観世九阜会会員(観世喜之氏に師事)。鎌倉ロータリークラブ会員。慶応義塾湘南藤沢中学高等学校講師。読売文化センター横浜講師(観世流謡曲・仕舞)。

能

「殺生石」あらすじ

名僧玄翁が下野国那須野を通り掛かると、ある石の上を飛ぶ鳥がバタバタと落ちて死ぬのを見る。不審に思って近付こうとすると美しい女が呼び止め、殺生石になった美女玉藻の前(実は印度・中国・日本の王朝を揺がせた妖狐)のことを物語り消え失せる。

玄翁が祈ると、石が割れ、九尾の狐が本性を現し、帝に近付き取り殺そうとしたのを安倍泰成に見破られ、那須野に逃げてきたのを武士達に射止められた次第を仕方難い見せ、再び殺生をせぬことを誓って消える。



のむら ゆうき

野村 裕基

1999(平成11)年生。野村萬齋の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。3歳の時に『靉猿』で初舞台後、子方として国内外を問わず多数の舞台に出演。すでに『三番叟』、『奈須与市語』、22年に『釣狐』を抜き、「万作の会」の若手狂言師の一人として舞台を勤めている。能楽協会会員。



かんぜ よしまさ

観世 喜正

1970年東京生まれ。慶応義塾大学法学部卒業。父・観世喜之に師事。重要無形文化財総合指定者。東京を中心に、全国の公演、海外公演に多数出演。普及活動や講演も多く行う。また謡曲のCD化、能公演のDVD作成など能楽教材のソフト化にも積極的に取り組み、札幌から長崎まで国内十数か所で指導に当たる。2000年より始めた「のうのう講座」は、解説のみならず体験教室、異種共演など多角的アプローチで能と日本文化の紹介・普及に取り組む。著書「演目別に見る能装束」(淡文社)



かさい せいじ

葛西 聖司

古典芸能解説者。NHKアナウンサー時代の経験を生かし、能や歌舞伎、文楽、日本舞踊など古典芸能についての解説や講演を行っている。早稲田大学やNHK文化センターなどで講座を担当。著書に「教養として学んでおきたい能狂言」「名セリフの力」「文楽のツボ」など多数。日本演劇興行協会理事。